

## 《「こんにちは訪問」を実施しました》



地域の皆さまに女川1号機の廃止を決定した経緯などについて説明

11月8日から26日にかけて、地域の皆さまへ発電所の状況をご説明しながら、ご意見などをお聴きする対話活動「こんにちは訪問」を実施しました。

1994年の開始から34回目となる今回は、発電所員延べ約200人が、女川町と石巻市牡鹿半島部の約3,900戸を訪問し、女川1号機の廃止を決定した経緯などについて説明しました。地域の皆さまからは「安全を最優先に廃炉作業を進めてほしい」「小まめな広報活動で、地域の安心につなげてほしい」などのご意見をいただきました。

対話活動の中で、皆さまからいただいた貴重なご意見は、今後の発電所運営に生かしてまいります。

発電所の運営にあたっては、地域の皆さまのご理解が何より重要と考えています。

女川原子力発電所の安全対策工事等を着実に進めていくとともに、今後も継続して、分かりやすい情報公開と丁寧な対話活動に努めてまいります。

地域総合事務所  
内藤 剛彦（岩手県出身）



## 《「女川原子力発電所品質月間集会」を開催しました》

当発電所では、業務品質に対する一層の意識の高揚を図るため、毎年11月に全国大で展開されている「品質月間」に合わせ、さまざまな取り組みを行っています。

11月19日、その一環として、発電所員および構内協力企業の社員約1,200人が参加し、「女川原子力発電所品質月間集会」を開催しました。

集会では、優れた品質管理を行っている協力企業や品質向上への意識を高める標語を提案した社員の表彰などを行いました。

最後に、参加者全員で優秀作品に選ばれた標語を唱和し、業務品質をさらに高めていくことを確認しました。



品質月間入選標語の表彰



全員で優秀作品に選ばれた標語を唱和



## 《私の職場を紹介します》

私が所属する保全部原子炉グループは、原子炉圧力容器や非常用の炉心冷却装置など、多くの安全上重要な設備の保守管理を担当しています。また、万が一に備えた安全対策として導入している大容量送水ポンプ車などの保守管理や、重大事故等により原子炉格納容器内の圧力が大幅に上昇した際に、格納容器の破損を防止するためのフィルター付格納容器バント設備の設置工事なども担当しています。

11月7日、緊急時に原子炉を間接的に冷却するために必要な海水をくみ上げる海水ポンプが故障した場合を想定し、代替海水ポンプによる送水訓練を行いました。私の職場では、緊急時においても原子炉を安全に冷却し続けるために必要な設備の設置・運転訓練を継続的に実施し、技術の習熟を図っています。



天井クレーンに異常がないかを確認



代替海水ポンプによる送水訓練を定期的実施



私は、非常用の炉心冷却装置や、重量物を吊り上げるために設置している天井クレーンなどの保守管理を担当しています。代替海水ポンプによる送水訓練では、事前に作業全体の流れを把握し、発生するかもしれないリスクを想定することで、安全かつ適切な対応ができるよう取り組んでいます。今後も有事に備え、さまざまな事象を想定した訓練を継続的に行い、発電所の安全維持・向上に努めてまいります。



今回の“私”

保全部 原子炉グループ  
新田 一成 (美里町出身)

## 《「東北電カクリスマスドリーム」を開催しました》

11月10日、石巻市立牡鹿中学校体育館において、「東北電カクリスマスドリーム」を開催し、約150人の生徒や児童が練習の成果を発表しました。このイベントは、1994年から毎年2会場(石巻会場、女川会場)で開催しており、今回で25回目となります。(女川会場は12月16日に開催)

石巻会場では、牡鹿中学校生徒による「侍ソーラン」をはじめ、鮎川小学校、大原小学校、寄磯小学校の児童がそれぞれの特徴を生かした合唱や楽器演奏などを披露しました。子どもたちの熱演に来場者から惜しみない拍手が送られました。



侍ソーラン演舞《牡鹿中学校》



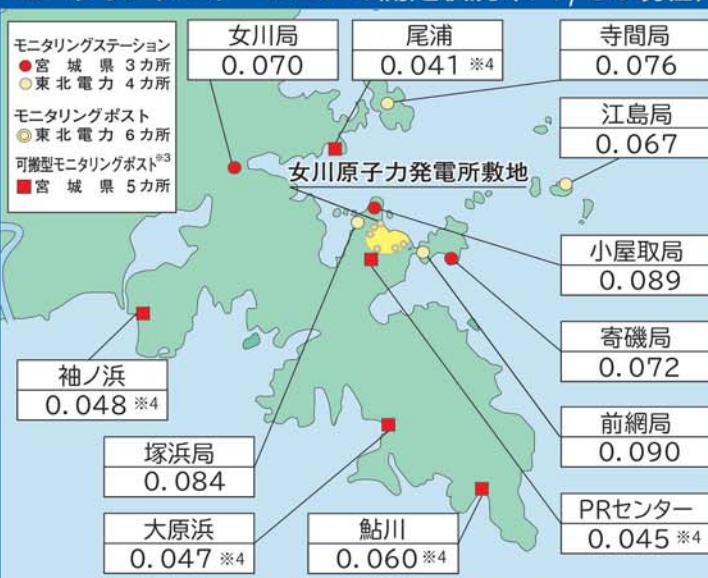
ハンドベル演奏《寄磯小学校》

## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.051マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

### モニタリングステーションの測定状況(11/30現在)



### (参考) モニタリングポストの最小値と最大値

地震発生日	最小値	最大値
〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	2011年 3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	2011年 3月13日	1.8~21 ※4 ※5
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	2012年 4月1日	0.063~0.098 ※4
2013年 4月1日	0.055~0.076 ※4	
2014年 4月1日	0.046~0.065 ※4	
2015年 4月1日	0.043~0.077 ※4	
2016年 4月1日	0.041~0.061 ※4	
2017年 4月1日	0.038~0.059 ※4	
2018年 4月1日	0.037~0.048 ※4	
2018年 11月1日	0.037~0.048 ※4	
2018年 11月30日	0.037~0.051 ※4	

単位: マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。  
 ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。  
 ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。  
 ※4 モニタリングポストや可搬型モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。  
 ※5 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。